

## 2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年7月31日

上場会社名 J B C Cホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9889 URL <https://www.jbcchd.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東上 征司  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理担当 (氏名) 浅利 信治 TEL 03-6262-5733  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	18,118	10.7	1,536	34.9	1,658	34.7	1,120	31.7
2024年3月期第1四半期	16,359	17.9	1,139	13.3	1,231	16.7	850	17.3

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 1,231百万円 (30.9%) 2024年3月期第1四半期 940百万円 (42.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	72.34	—
2024年3月期第1四半期	54.04	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	36,910	21,511	58.3
2024年3月期	37,207	21,178	56.9

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 21,511百万円 2024年3月期 21,178百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	40.00	—	54.00	94.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	53.00	—	53.00	106.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	33,250	0.8	2,550	11.7	2,600	9.0	1,790	5.7	115.61
通期	66,500	2.0	5,100	15.3	5,200	14.3	3,590	12.6	231.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期1Q	17,773,743株	2024年3月期	17,773,743株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	2,286,168株	2024年3月期	2,286,168株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期1Q	15,483,403株	2024年3月期1Q	15,736,936株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(補足資料について)

決算補足資料は、T D n e tへの登録および当社ウェブサイト同日掲載しています。

(URL : <https://www.jbcchd.co.jp/ir/library/presentation/index.html>)

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状況の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

国内のITサービス市場は円安の進行による調達コストへの影響が懸念される一方で、クラウド利用の拡大や多様化する働き方への対応等、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）は加速しています。高度化するサイバー攻撃の急増に伴うセキュリティ対策需要に加え、人材不足を背景とした業務効率化や自動化、競争力強化のためのシステム構築やAI活用等、企業のIT投資は継続して意欲的です。

このような状況の中、当社グループは、新たな中期経営計画「CHALLENGE 2026」（2025年3月期～2027年3月期）をスタートしました。注力事業をクラウド、セキュリティ、超高速開発の3事業に集約し、さらに企業での有効利用が期待されるデータ&AI活用を推進することで事業構造の変革を加速し、継続的成長と高収益性の実現を目指します。

当社グループのお客様においては、クラウドファースト（クラウド利用を最優先とする考え方）でのIT環境やシステムの検討が進んでいます。複雑化するIT環境や働き方の多様化等、企業の様々なニーズに柔軟に対応するため、マルチクラウドに対応したクラウド、セキュリティのサービス&ソリューションを展開し、企業のクラウド活用を促進しています。クラウド利用に不可欠なセキュリティとのクロスセルが好調で、ストックビジネスの受注が拡大しました。また、企業における生成AI活用の引き合いが増加しており、その活用支援サービスを開始する等、顧客ニーズに応えるサービスのラインアップを拡充し、活発なビジネスを展開しました。

超高速開発は、大型案件を含む複数の開発プロジェクトが進行しています。前期末に遅延が発生したプロジェクトへの対応に専念し、当四半期は前年同期比でマイナス成長となりました。

この結果、売上高18,118百万円（前年同期比10.7%増）、営業利益1,536百万円（同34.9%増）、経常利益1,658百万円（同34.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,120百万円（同31.7%増）となりました。中期経営計画において成長の要と位置付けるクラウド、セキュリティの着実な伸長に加え、お客様のシステム更改に伴うハードウェアの刷新も重なり、前期に続いて当四半期においても二桁の増収増益を達成し、中期経営計画の初年度として順調な滑り出しとなりました。

当第1四半期連結累計期間（2024年4月1日～2024年6月30日）における事業分野別の概況は、以下の通りです。

#### 【情報ソリューション】

情報ソリューション分野は、システム開発（SI）、サービス、システムの3つに分類し、注力事業であるクラウド、セキュリティ、超高速開発を中心にビジネスを展開しています。

#### ・システム開発（SI）

超高速開発については、先行したローコード開発への取り組みと480件を超える導入実績から、基幹システム刷新の案件規模が大型化しています。それに伴い、業務理解や品質確保における課題が顕在化しており、遅延プロジェクトに人的リソースを集中投入し対応を進めました。さらに、不採算が見込まれる案件を含め進行するプロジェクトを見直し、追加コストの引き当てを実施しました。これらの対応により年後半での正常化を見込んでいます。なお、新規受注は一部制限しているものの引き合いは堅調で、引き続き開発体制・スキルの強化を図りながら、開発におけるマイクロセットサービスの適用率を上げることで、品質と生産性の向上を実現していきます。

#### ・サービス

クラウドについては、お客様のクラウド運用コストへの高い関心を背景に、既存のインフラ投資額と比較して平均30%のコスト削減を可能にする、運用&最適化付クラウドサービス「EcoOne」が好調を維持しました。（クラウドの売上高 前年同期比48.5%増）VMware製品（仮想化ソフトウェア）のライセンス価格高騰により利用ユーザー間でコスト増への懸念が広まっており、ウェビナーを中心とした積極的なWebマーケティングの実施と、VMwareを利用するオンプレミス環境からクラウドへの移行（クラウドリフト）提案を推進したことで、新規の見込み顧客の獲得につながりました。クラウドへの移行・構築から運用、さらには生成AIを含めたSaaSの利活用・定着の支援まで、企業のクラウド活用を促進する総合的な取り組みや販売実績が評価され、米国 Microsoft Corporation、サイボウズ株式会社、DropBox Japan株式会社（オンラインストレージ）の各SaaSベンダーより表彰されました。

- Microsoft Copilot（生成AI）活用支援サービス（2024年6月発表）

<https://www.jbcchd.co.jp/news/2024/06/17/130000.html>

- J B C Cグループ受賞歴 <https://www.jbcchd.co.jp/corporate/awards/>

セキュリティについては、昨今のサイバー攻撃による深刻な被害の報道を受け、お客様の関心と投資意欲が高まっています。セキュリティの提案機会も増加しており、好調なクラウド事業と併せてクラウドセキュリティの領域が継続して伸長しました。(セキュリティの売上高 前年同期比37.6%増) また、大手・中堅企業向けに、社内外のIT資産の脆弱性を検知・診断する「脆弱性マネジメントサービス」の提供を開始しました。同企業向けの「Attack Surface診断サービス」(2023年1月発表)との組み合わせ提案により、企業の膨大なIT資産のセキュリティ対策を多層的に実現するとともに案件規模の拡大を図ります。

- 脆弱性マネジメントサービス (2024年6月発表) <https://www.jbcchd.co.jp/news/2024/06/27/110000.html>

前述のクラウド、セキュリティ(ストックビジネス)の力強い成長と併せ、これらに付随する導入や移行作業などのフロービジネスが増加し、サービス全体の売上高は大幅増となりました。

#### ・システム

ハードウェアやソフトウェアの販売を行っており、お客様のクラウド利用への移行に伴い、中長期では縮小傾向にあります。当四半期においては、お客様のシステム更改によるハードウェアの刷新が重なり、売上高が増加しました。

以上の結果、情報ソリューションの売上高は、17,647百万円(対前年同期比10.9%増)となりました。

#### 【製品開発製造】

製品開発製造分野は、当社グループ独自のソフトウェア、クラウドサービスおよびプリンターなどの情報機器の開発・製造・販売を行っています。主力サービスであるクラウドデータ連携基盤「Qanat Universe」は、国内の主要な業務系SaaSにデータ連携機能を提供するビジネスを展開しており、安定した高品質サービスの提供を第一に連携先SaaSの拡充を図っています。プリンター類のハードウェアは、引き続き縮小傾向にあります。

- バックオフィス業務支援ソリューション「ClimberCloud」と電子契約・契約管理サービス「WAN-Sign」との連携にQanat Universe採用(2024年6月発表) <https://www.jbat.co.jp/topics/20240620.html/>

以上の結果、製品開発製造の売上高は470百万円(対前年同期比4.5%増)となりました。

#### [事業分野別の状況]

(単位：百万円)

			2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	前年同期比
情報ソリューション	システム開発(SI)	売上高	4,508	3,941	△12.6%
		売上総利益	1,507	1,039	△31.1%
		%	33.4%	26.4%	
	サービス	売上高	7,723	9,500	+23.0%
		売上総利益	2,167	2,746	+26.7%
		%	28.1%	28.9%	
	システム	売上高	3,677	4,205	+14.4%
		売上総利益	819	953	+16.4%
		%	22.3%	22.7%	
	合計	売上高	15,909	17,647	+10.9%
		売上総利益	4,494	4,738	+5.4%
		%	28.3%	26.9%	
製品開発製造		売上高	450	470	+4.5%
		売上総利益	321	320	△0.2%
		%	71.3%	68.1%	
合計		売上高	16,359	18,118	+10.7%
		売上総利益	4,816	5,059	+5.0%
		%	29.4%	27.9%	

## (2) 当四半期の財政状況の概況

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ296百万円減少し、36,910百万円となりました。これは主に現金及び預金が126百万円増加、受取手形、売掛金及び契約資産が195百万円増加した一方、商品及び製品が1,138百万円減少したことによるものです。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ630百万円減少し、15,398百万円となりました。これは主に賞与支払いにより未払費用が2,016百万円減少した一方、契約負債が1,088百万円増加したことによるものです。なお、システム開発での遅延プロジェクトの見直しと正常化のため将来損失見込みを追加し、受注損失引当金が144百万円増加しましたが、年後半での正常化を見込んでいます。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ333百万円増加し、21,511百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益により1,120百万円増加した一方、配当金の支払いにより836百万円減少したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期通期の連結業績予想につきましては、2024年5月9日に公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、対前期増減率のみ、2024年5月13日に訂正しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,902	10,028
受取手形、売掛金及び契約資産	13,306	13,502
商品及び製品	3,137	1,999
原材料及び貯蔵品	250	226
その他	3,233	3,807
貸倒引当金	△93	△93
流動資産合計	29,737	29,470
固定資産		
有形固定資産	1,645	1,600
無形固定資産	378	354
投資その他の資産		
投資有価証券	2,646	2,806
その他	2,825	2,719
貸倒引当金	△26	△41
投資その他の資産合計	5,446	5,484
固定資産合計	7,469	7,439
資産合計	37,207	36,910
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,912	4,344
未払費用	4,735	2,719
未払法人税等	887	546
受注損失引当金	74	218
その他	4,629	6,813
流動負債合計	15,238	14,643
固定負債		
退職給付に係る負債	14	14
資産除去債務	635	636
その他	140	104
固定負債合計	790	755
負債合計	16,028	15,398
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,713	4,713
資本剰余金	5,103	5,103
利益剰余金	14,027	14,249
自己株式	△3,518	△3,518
株主資本合計	20,325	20,548
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	859	975
為替換算調整勘定	△8	△12
退職給付に係る調整累計額	0	0
その他の包括利益累計額合計	852	963
純資産合計	21,178	21,511
負債純資産合計	37,207	36,910

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	16,359	18,118
売上原価	11,543	13,059
売上総利益	4,816	5,059
販売費及び一般管理費	3,676	3,522
営業利益	1,139	1,536
営業外収益		
受取配当金	29	33
持分法による投資利益	2	—
受取保険料	46	77
その他	20	33
営業外収益合計	98	144
営業外費用		
支払利息	2	3
貸倒引当金繰入額	—	14
その他	3	4
営業外費用合計	5	22
経常利益	1,231	1,658
特別利益		
投資有価証券売却益	11	—
特別利益合計	11	—
税金等調整前四半期純利益	1,243	1,658
法人税等	392	538
四半期純利益	850	1,120
親会社株主に帰属する四半期純利益	850	1,120

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	850	1,120
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	93	115
為替換算調整勘定	△5	△4
退職給付に係る調整額	2	△0
その他の包括利益合計	89	111
四半期包括利益	940	1,231
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	940	1,231

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算は、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）、及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	100百万円	83百万円
のれんの償却額	8	8

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	情報ソリューション	製品開発製造	計		
主要な財又はサービス					
S I	4,508	—	4,508	—	4,508
サービス	7,723	—	7,723	—	7,723
システム	3,677	—	3,677	—	3,677
製品開発製造	—	450	450	—	450
売上高合計	15,909	450	16,359	—	16,359
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	15,909	450	16,359	—	16,359
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	15,909	450	16,359	—	16,359
セグメント間の内部 売上高又は振替高	44	171	215	△215	—
計	15,953	621	16,575	△215	16,359
セグメント利益	1,466	5	1,471	△332	1,139

(注) 1. セグメント利益の調整額△332百万円には、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△335百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 主要な財又はサービスの内容は下記の通りです。

S I…当社グループ独自の開発手法「JBアジャイル」を取り入れた超高速開発を中心としたシステム開発

サービス…クラウドやセキュリティサービスを中心としたITシステムの構築・運用・保守サービス

システム…ハードウェア及びソフトウェアの販売

製品開発製造…クラウド連携プラットフォーム等、独自のソフトウェアや生産管理システムの開発・提供及

びプリンター等各種ハードウェアの製造・販売

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ. 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	情報ソリューション	製品開発製造	計		
主要な財又はサービス					
S I	3,941	—	3,941	—	3,941
サービス	9,500	—	9,500	—	9,500
システム	4,205	—	4,205	—	4,205
製品開発製造	—	470	470	—	470
売上高合計	17,647	470	18,118	—	18,118
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	17,647	470	18,118	—	18,118
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	17,647	470	18,118	—	18,118
セグメント間の内部 売上高又は振替高	37	146	184	△184	—
計	17,685	617	18,302	△184	18,118
セグメント利益	1,836	29	1,866	△329	1,536

(注) 1. セグメント利益の調整額△329百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△329百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 主要な財又はサービスの内容は下記の通りです。

S I…当社グループ独自の開発手法「JBアジャイル」を取り入れた超高速開発を中心としたシステム開発  
 サービス…クラウドやセキュリティサービスを中心としたITシステムの構築・運用・保守サービス  
 システム…ハードウェア及びソフトウェアの販売  
 製品開発製造…クラウド連携プラットフォーム等、独自のソフトウェアや生産管理システムの開発・提供及びプリンター等各種ハードウェアの製造・販売

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。